



高橋 秀彰 議員



フューチャーデザインの積極的な活用について

問 フューチャーデザインは、政策形成にあたり、現代に生きる人々（現在世代）のみならず、まだ生まれていない将来に生きる人々（仮想将来世代）をも利害関係者として捉え、仮想将来世代と現在世代の双方の視点で考えることで、解決方法を見いだすものである。この手法により、将来の目的やビジョンについて、その将来像から逆算して現時点からの必要な行動や戦略

を考え、持続可能なまちづくりに向け、具体的で効果的な行動計画を策定することは、大変に有意義と考える。今後、フューチャーデザインの積極的な活用が必要と考えるがどうか。

答（副市長） 人口減少社会における政策立案のプロセスは、将来世代から見た長期的な視点が重要となる。国よりSDGs未来都市に認定されたこともあり、フューチャーデザインの考え方を活用しながら、SDGs達成に向けた取り組みを加速させていく。

答（企画政策部長） 岩手県矢巾町^{やはばちよう}では、フューチャーデザイン手法を活用し市民と対話した結果、水道料金の値下げという私的利益を求めるのではなく、老

朽管の更新に係る将来世代の負担を考慮し、値上げするという公共の利益が選択された。この事例は参考になる点も多く、今後、具体的な活用に向けて情報収集や研究を進めていきたい。



《その他の質問》

- ・カスタマーハラスメント対策について



佐藤 稔 議員



「新しい認知症観の啓発で共に支え合う社会の構築」について

問 誰もが認知症に成り得ると言う認識と、新しい認知症観の啓発のもと、児童生徒から地域の企業・団体および自治会等と連携し、認知症サポーター養成講座のさらなる展開とケア技法「ユマニチュード」(*)の習得等が必要と考えるが市の考えを伺う。

を認知症の人にもやさしいお店として登録している。認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、ケア技法「ユマニチュード」の考え方も参考にし、情報発信や新しい認知症観の普及啓発を図り、一人一人が自分事として捉え、認知症の人に寄り添った支援が行えるよう取り組んでいく。



ユマニチュード4つの柱

パッカー車や廃棄物処理施設でリチウム蓄電池に起因すると思われる発火事故が多発している。回収作業員や処理施設の安全を守るためにも、明確な分別の周知・広報のもと、拠点回収が必要と考えるが市の考えを伺う。

答（市民部長） 現在、リチウム蓄電池専用の回収ボックスを市内全域で同時に設置する方向で考えている。不適切なごみ分別が原因で、火災事故等につながる危険性があることを周知、啓発していくことが課題と考える。

答（福祉部長） 認知症サポーター養成講座を学校や企業、自治会等へ実施し、受講された企業等

※ユマニチュード…「人間らしさを取り戻す」ことを意味するフランス語で、フランス発祥の認知症のケア技法のこと。

「リチウム蓄電池の拠点回収」について

問 廃棄物処理作業において、

《その他の質問》

- ・「マイナ保険証」の普及と利用促進について